校内別室の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学１年生の２学期後半から教室に入れない日が続き、３学期は欠席が多くなった。令和５年度から別室を設置したところ、安心して登校できる教室があることで、表情も明るくなった。令和６年度も継続して別室に登校している。途中から教室に入れる日も多くなってきている。

具体的な取組

○不登校生徒の居場所づくり

別室を週５日、開室している。毎朝、出席の確認を行い、一日の予定を確認している。職員室の近くに別室を設けることで、多くの先生が顔を出しやすく、明るく落ち着いた雰囲気で活動ができている。

○組織力の向上

加配教員を中心に、別室指導の充実を図っている。毎日、不登校生徒の様子を担任や学年の教員に伝え、より多くの先生方が別室指導に携われるよう、連絡を密にしている。また、必要に応じて、加配教員も保護者との面談や連絡を行い、学校全体で支援している。

○校内委員会の充実

毎週火曜日に校内委員会（管理職、各学年の特別支援担当、加配教員、特別支援教室担当教員、養護教諭、校内別室指導支援員、ＳＣ、ＳＳＷ）を開き、情報共有を行っている。学年ごとに生徒の変化や支援方法、今後の動き等を把握し、学校全体での支援体制を確認している。

○外部機関との連携

ＳＣ、ＳＳＷ、子ども家庭支援センター、児童相談所などと連携し、必要な場合は、生徒や保護者をつなげられるような対応をとっている。また、専門的な視点による意見も伺い、学校での支援に生かしている。学校と外部機関との連携がスムースに行われている。

成果

別室で毎日加配教員が生徒を迎え入れることで、安心した居場所ができ、生徒の気持ちの安定が図られた。加配教員を中心により多くの先生方とコミュニケーションが取れ、生徒にとって人との関わりが多くなり自信が感じられるようになった。

課題

別室の登校から、教室に入ることへつなげていくことが課題である。また、学習面でのサポートも必要である。